

基礎分野

多様な場で生活する人々に対する看護を提供するための基礎知識（基礎的能力）となるものを基礎分野で学ぶ内容としている。「人間と生活・社会」がよく理解されて、科学的思考の基盤となる考え方を学び、既習知識を統合させながら看護実践能力に繋がっていくことをねらいとし、14科目14単位で構成している。

科学的思考の基盤 P2～	・ ・ ・	物理学	論理学	情報科学 I・II	
人間の生活と社会の理解 P7～	・ ・ ・	心理学 I・II	哲学	社会学	教育学
		人間関係論	生活の中の芸術	外国語	
		運動と健康	家族論		

授業概要

分野	基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	濱 道生
科目名	物理学	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容 授業時に講師に指示された内容に取り組む。					
科目全体のねらい・授業目標 人間の体と技の原理及び科学技術の原理を理解することで、看護技術を物理学的に考察することにつながる。科学的根拠のある看護技術を学ぶための基礎的能力を養うことをねらう。					
DPとの関連	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	看護における力学的な原理・原則が理解できる 移動動作に必要な力の加減 体位変換に役立つトルクの知識		講義	テキスト1 資料	
2	安定・不安定—体位変換における重心 看護にかかわる作用・反作用の法則				
3	力学を人体に適応する：ボディメカニクス		講義	テキスト1 資料	
4	看護における圧力の原理が理解できる 医療で使われる圧力の基礎知識 静止流体：気体の法則と医療・医療機器の物理		講義	テキスト1 資料	
5	酸素ポンプ—真空管採血の原理 圧力の大きさによって生じる疾患				
6	静止流体：気体の法則と医療・医療機器の物理		講義	テキスト1 資料	
7	流体力学：血圧、点滴の物理				
8	終講試験				
受講上の留意点 授業資料を配布するので、講義する範囲を一読してください。 わからない内容があれば、必ず講師に確認してください。				評価方法 筆記試験	
使用するテキスト 1. ベッドサイドを科学する(医書 jp)					
参考文献 物理学 解剖生理学 [からみた] 基礎・臨床看護技術(医学書院 eテキスト) 看護形態機能学(医書 jp) 平田雅子著 なぜ?を知ったらこわくない ベッドサイドのサイエンス Q&A 日本看護協会出版会 竹内登美子編著 周手術期看護2 医歯薬出版株式会社					

授業概要

分野	基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	田邊 正俊
科目名	論理学	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
事前学習内容 授業時に講師に指示された内容に取り組む。					
科目全体のねらい・授業目標 人間の様々な生き方への関心をもち、身近なところから問題意識をもてるよう、自己の思考を深めるための論理的に思考する力を身につけ、かつそれを文章表現できることをねらう。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	「論理(学)」について理解することができる。		講義	テキスト1 資料	
2	「論理(学)」を学ぶ意味について、文章力の向上という観点から確認する。				
3	「書く」ことについて理解を深めることができる。		講義	テキスト1 資料	
4	論理的な文章を「書く」ことの基本について、実践を交えながら理解を深める。				
5	「読む」ことについて理解を深めることができる。		講義	テキスト1 資料	
6	論理的な文章を「読む」ことの基本について、実践を交えながら理解を深める。				
7	構成を立てて論旨の一貫した文章を書くことができる。		講義	テキスト1 資料	
8	事前に主題を明確にして構成を立てたうえで、その構成に沿って論旨の一貫した文章を書くことについて学び、実践する。				
9	読み手にとってわかりやすい文章、書き手の考えを正確に伝える文章を書くことができる。		講義	テキスト1 資料	
10	語順・読点・接続語・指示語等が「文章のわかりやすさ」に大きな影響を及ぼすことについて確認する。また、「文のねじれ」や「隠れた前提」について学ぶことを通じて、「書き手の考えを正確に伝える文章」を書くために必要なことについての理解を深める。				

11	文章の要点を把握することができる。 要約の実践を通じて、文章を適切に読み、要点を把握することについて学ぶ。	講義	テキスト1 資料
12			
13	レポートや論文に取り組む際の「形式的な注意事項」を理解することができる。 文章を書く際の形式的な注意事項、引用と参照指示の提示方法、文献やインターネットの活用方法等について、具体例を交えながら学ぶ。	講義	テキスト1 資料
14			
15	終講試験 試験に際しては、基本的な構成と論述問題の内容について事前に予告する。		
受講上の留意点 本科目は、3時限と4時限に連続して開講されます。(最終日については、終講試験と解説講義をあわせて実施します)。 基本的に、3時限には講義を実施します。4時限には提示された課題に従って、「小レポート」を書いてもらいます(「小レポート」に代わり、学んだことが身についているかを確認する「小テスト」を行う場合もあります)。 小レポート/小テストは、次回の授業の際に担当講師が評価と添削コメントをつけたうえで返却します。 「書く力」(自分の考えが読み手に正確に伝わる文章を書くことが重要です)と「読む力」(書き手の主張と、その根拠を理解できるようになることが重要です)を“どちらも高める”ことを心がけてください。		評価方法 平常点 50% (小レポート課題と小テストにもとづいて評価) 終講試験 50%	
使用するテキスト 1. 松葉祥一著 ナースのための実践論文講座 人文書院			
参考文献 戸田山和久著 最新版 論文の教室 NHK 出版 福澤一吉著 看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル 医学書院 (上記以外の参考文献については、多岐にわたるため、レジュメ等を通じて適宜紹介します)。			

授業概要

分野	基礎分野	履修年次	1 年次	担当講師 星 雅文	
科目名	情報科学 I	単位数	1 単位		
		時間数 (回数)	15 時間 (8 回)		
事前学習内容 授業前、授業時に指示された内容に取り組む					
科目全体のねらい・授業目標 人間は常に情報をやり取りして生活しており、それは医療現場における看護においても同様である。まず、情報とは何かを理解し、情報の活用方法と情報を取り扱う責任について学ぶ。					
DP との 関連	DP1. 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2. 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP6. 保険医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働ができる				
	DP7. 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	情報の特徴と情報社会について理解できる (情報とは? 特性、認知と意思決定、コミュニケーション、情報社会)			講義 PC 演習 (情報科学室)	
2	情報倫理やセキュリティについて理解できる (コンピュータリテラシー・インターネットに関する基礎知識と注意点)				
3	情報取得方法とワープロソフトの使い方が理解できる (文献検索、情報へのページ設定、文章入力、挿入、参考資料、校閲)				
4	表計算ソフトを利用し統計処理が理解できる (エクセルの基本操作、データ入力形式・表示方法と種類と単純集計)				
5	表計算ソフトを利用し統計処理・情報分析ができる (正規分布の特徴、統計的推定と 95%信頼区間)				
6	表計算ソフトを利用し統計処理・情報分析ができる (一般検定と 2 種類の過誤、各種平均の検定)				
7	表計算ソフトを利用し統計処理・情報分析ができる (量的データと量的データの関係を調べる、散布図と回分析、多変量解析)				
8	終講試験			実技試験	
受講上の留意点 指示された準備・学習を整えて臨んでください 学習した情報の取り扱いや方法を日常生活や看護に活かしてください				評価方法 実技試験	
使用するテキスト 1. 看護情報学 2. 統計学 (医学書院 e テキスト)					
参考文献 田久浩志・岩本晋著 実力養成 Word&Excel 改訂版ーらくらくレポート作成・データ集計 羊土社					

授業概要

分野	基礎分野	履修年次	2年次	担当講師	星 雅文
科目名	情報科学Ⅱ	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容 授業前、授業時に指示された内容に取り組む					
科目全体のねらい・授業目標 現代の医療における情報について知り、医療情報の管理、活用方法を理解する。また、ICTを活用したコミュニケーションを理解し、看護実践に活かす方法を学ぶ					
DPとの 関連	DP1. 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2. 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP6. 保険医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働ができる				
	DP7. 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
授業の流れ 医療における情報の内容や活用方法について学び、情報における倫理について理解する。また個人情報の管理の重要性を学び適切な管理について学ぶ。その活用方法を実施する。					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	医療における情報について理解できる (保健医療と情報：エビデンス情報・ヘルプロモーション)			講義 PC演習 (情報科学室)	
2	医療における情報について理解できる (看護と情報：情報社会と看護) 医療における情報システム)				
3	医療における情報の記録・病院の情報システムと記録の仕方・地域医療福祉のネットワークと情報システムの理解ができる				
4	医療における情報倫理について理解でき、管理方法がわかる (情報倫理と医療、患者の権利と情報：権利と自己決定への支援)				
5	医療における情報倫理について理解でき、管理方法がわかる (診療情報の開示、個人情報の保護：個人情報・情報利用の仕方)				
6	ICTを活用したコミュニケーションを理解し看護実践に活かす方法がわかる(質問紙調査によるデータ収集：調査とそのプロセス・調査の計画・準備)				
7	ICTを活用したコミュニケーションを理解し看護実践に活かす方法がわかる(調査の実施とデータ・データ分析の準備、文字情報の整理、情報の発表とコミュニケーション)				
8	終講試験			実技試験	
受講上の留意点 指示された準備・学習を整えて臨んでください 学習した情報の取り扱いや方法を日常生活や看護に活かしてください				評価方法 実技試験	
使用するテキスト 1. 看護情報学 2. 統計学(医学書院 eテキスト)					
参考文献 田久浩志・岩本晋著 実力養成 Word&Excel 改訂版ーらくらくレポート作成・データ集計 羊土社					

授業概要

分野	基礎分野	履修年次	1 年次	担当講師	田中 秀男
科目名	心理学 I	単位数	1 単位		
		時間数 (回数)	15 時間 (8 回)		
事前学習内容					
授業時に講師に指示された内容に取り組む					
科目全体のねらい・授業目標					
看護の対象である人間を理解するための1つの学問領域として本科目を設置する。心理・感情・基本的欲求など行動の基礎にある原理を学び、人間理解の手がかりとなる知識を習得する。また、看護に欠かすことができない自己理解・他者理解に必要な基礎理論を学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	心を理解しようとする「心理学」のもつ意味を理解する (心理学、対人援助者、心理学の歴史)		講義	テキスト1 資料	
2	心と行動のメカニズムの発達過程を理解する (発達理論：エリクソン他、発達心理)		講義	テキスト1 資料	
3	人間が持つ欲求が生み出す心理的な力について理解する (欲求と動機づけ・葛藤と欲求不満)		講義	テキスト1 資料	
4	人間が持つ欲求が生み出す心理的な力について理解する (学習と行動)		講義	テキスト1 資料	
5	パーソナリティについて理解する (性格、パーソナリティ、性格の理論)		講義	テキスト1 資料	
6	感覚・知覚・記憶・動機・認知などとよばれる高次の心的活動について理解する (感覚・知覚)		講義	テキスト1 資料	
7	感覚・知覚・記憶・動機・認知などとよばれる高次の心的活動について理解する (記憶・感情)		講義	テキスト1 資料	
8	終講試験				
受講上の留意点				評価方法	
ここで学ぶ内容は、今後の看護学を学ぶうえで基礎となります。知識理解にとどまらず、人間理解の視点として捉え、自分自身や他者と結び付けながら考えてみましょう。				筆記試験	
使用するテキスト					
1. 長田久雄編集 看護学生のための心理学 (医学書院 e テキスト)					
参考文献					
心理学 (医学書院 e テキスト)					

授業概要

分野	基礎分野	履修年次	2年次	担当講師	佐藤 浩
科目名	心理学Ⅱ	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容					
授業時に講師に指示された内容に取り組む					
科目全体のねらい・授業目標					
心理学Ⅰで学んだ、人間の心あるいは精神といわれる側面を理解するための基礎知識を活用しながら、心に問題を持った人に対するアプローチと、心の病を予防し、より健やかで生きがいのある人生を送るための対人援助のための基盤となる知識を学ぶ。また、心理アセスメントといわれる臨床心理学的な人間理解と、カウンセリングおよび心理療法による臨床心理学的援助法も併せて学ぶことをねらいとする。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	臨床心理学の基本が理解できる (心理的援助)		講義	テキスト1 資料	
2	ストレスの定義・ストレス発生のメカニズム・ストレスへの対処行動について理解する (ストレスコーピング、ストレス理論)		講義	テキスト1 資料	
3	主観的統制感と健康の関連を理解する (学習性無気力、自己効力感、統制の所在)		講義	テキスト1 資料	
4	援助のための対象理解の方法を理解する (面接法、観察法、検査法)		講義	テキスト1 資料	
5	カウンセリングの基本的な考え方を理解する (定義、目的・方法、カウンセラーの態度)		講義 演習	テキスト1 資料	
6	心理療法の基本的な考え方を理解する(精神分析療法、パーソンセンタード・アプローチ)		講義 演習	テキスト1 資料	
7	心理療法の基本的な考え方を理解する (行動療法、集団心理療法、家族療法)		講義 演習	テキスト1 資料	
8	終講試験				
受講上の留意点				評価方法	
基本はテキストの内容で授業を進めます。分からないことは授業内で確認するなど、積極的に取り組みましょう。				筆記試験	
使用するテキスト					
1. 長田久雄編集 看護学生のための心理学 (医学書院 e テキスト)					
参考文献					
心理学 (医学書院 e テキスト)					

授業概要

分野	基礎分野	履修年次	2年次	担当講師	若杉直人
科目名	哲学	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容					
授業時に講師に指示された内容に取り組む					
科目全体のねらい・授業目標					
看護を専門職として捉えるうえで、「看護とは何か」という問いを人間のあり方から考える。哲学的視点を通して、人間の生・老・病・死や価値観について理解を深め、看護に必要な洞察力の基礎を養う。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	看護における哲学的テーマについて考える (看護と哲学の接点)		講義	テキスト1 資料	
2	哲学の歴史を学び、人間存在について理解する (古代の哲学)		講義	テキスト1 資料	
3	哲学の歴史を学び、人間存在について理解する (中世の哲学)		講義	テキスト1 資料	
4	哲学の歴史を学び、人間存在について理解する (近現代の哲学)		講義	テキスト1 資料	
5	個人の価値観、道徳観、倫理観はどのように形成されるかを理解する(道徳観、倫理観、価値観)		講義	テキスト1 資料	
6	人間における死の問題とターミナルケアについて考える(苦しみ、生きる意味・死に向き合う意味)		講義 グループワーク	テキスト1 資料	
7	人間集団におけるコミュニケーションについて理解する(責任を負うということ)		講義	テキスト1 資料	
8	終講試験				
受講上の留意点				評価方法	
「看護とは何か」という問いを考え続けます。知識の理解だけでなく、自分の経験や価値観と結び付けて考えていきましょう。				筆記試験	
使用するテキスト					
1. 田畑邦治・田中美恵子編集 哲学—看護と人間に向かう哲学 ニューヴェルヒロカワ					
参考文献					

授業概要

分野	基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	石山 雄貴
科目名	社会学	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容 授業時に講師に指示された内容に取り組む					
科目全体のねらい・授業目標 人間の生活・社会・地域文化・家族を理解し、変化の著しい現代社会の動向に関心を持ち、社会と人間生活の密接な関係を理解する。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	現代社会における家族と家族問題について社会的に説明できる 社会学の基本的な考え方、集団・組織・ネットワーク、 家族の機能と構造、社会変動とグローバリゼーション、 ジェンダーと性別役割分業、ケアの担い手の変化			講義	テキスト1 資料
2				講義	テキスト1 資料
3	働き方と働きかたと健康・病気との関係について説明できる 働き方と働きかたの健康への影響、ワーク・ライフ・バランス			講義	テキスト1 資料
4	社会格差と健康の関連と、健康に対する地域社会と保健医療制度の役割について説明できる 健康・病気の見方、社会格差と健康格差、 保健医療制度、地域社会と保健医療			講義	テキスト1 資料
5				講義	テキスト1 資料
6	患者と医療関係者のコミュニケーションの課題と適切なあり方について説明できる 社会的相互作用とコミュニケーション 患者-医療者関係とコミュニケーション			講義	テキスト1 資料
7	個人生活と地域社会との関係を理解する 但馬地域の風土・歴史・文化、地域社会・人びとの生活・移動、コ ウノトリにみる自然との共生社会			講義	テキスト1 資料
8	終講試験				
受講上の留意点 授業を受けるにあたり、主体的に予習・復習に努めましょう				評価方法 レポート、筆記試験	
使用するテキスト 1. 社会学 (医学書院 eテキスト)					
参考文献 授業内で適宜紹介します					

授業概要

分野	基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	河合 務
科目名	教育学	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容 授業時に講師に指示された内容に取り組む					
科目全体のねらい・授業目標 人としての心のありようを重視し、その健康を求めるときに看護は教育とつながるものとなり、教育の土台を形作ることとなる。看護という土台の上に展開される教育は、健康な生活に向けた支援である。それは、対象と共に歩み、考え、対象の望み(目標)に向かって評価をしながら行われるものである。教育の本質、教育目標・方法を理解したうえで、いかなる対象にも看護の教育的アプローチができること、また看護専門職として必要となる生涯学習のための自己教育力について学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関する看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	人間の成長と教育の意義を理解する 教育とは、人間の成長と教育の意義			講義	テキスト1、資料
2	教育目標と評価を理解する			講義	テキスト1、資料
3	評価と目標の関係、評価論、パフォーマンス評価、評価の開発と実践				
4	教育の基本について理解する 1) 人を教えるということ コミュニケーションとしての教えること			講義	テキスト1、資料
5	学ぶ・教えるということ「教える-学ぶ」の関係 2) 生涯学習 生涯学習の必要性、成人はどこでどのように学ぶのか				
6	専門職者として自己教育力の必要性が理解できる 自己教育力とその必要性、自己教育力とは何か			講義	テキスト1、資料
7	職業人の生涯学習社会のニード、キャリア開発 社会人学習の機会・制度			講義	テキスト1、資料
8	終講試験				
受講上の留意点 授業を受けるにあたり、主体的に予習・復習に努めましょう				評価方法 レポート、筆記試験	
使用するテキスト 1. 教育学(医学書院 eテキスト)					
参考文献 看護学概論、基礎看護技術Ⅰ(医学書院 eテキスト) 波多野完治著 生涯教育論 波多野完治全集⑪ 小学館					

授業概要

分野	基礎分野	履修年次	1年次	担当講師	三木裕和 石井路子
科目名	人間関係論	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
事前学習内容 授業時に講師に指示された内容に取り組む					
科目全体のねらい・授業目標 看護は人と人との関わり合いの中で展開され、人間関係を築くことは看護の大前提である。 体験を通して自己を振り返り、自己のコミュニケーションについて考える機会とする。また、他者を理解し、人間関係を形成するための理論や技法について学び、より良い関係を作り、豊かな看護実践に活かすことをねらう。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP3 健康の保持・増進・疾病の予防及び健康の回復に関する看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	人間関係の中の自己と他者について理解する 1) 自己とは何か 自己概念の分類、自己評価維持モデル、自己呈示			講義	担当：三木1 テキスト1、資料
2	2) 自己を取り巻く他者の理解 対人認知と印象形成、対人認知の個人差・影響			講義	担当：三木2 テキスト1、資料
3	対人関係の成立について理解する 対人関係の成立の条件、対人関係の維持と崩壊、 対人葛藤と対処			講義	担当：三木3 テキスト1、資料
4	態度と対人行動について理解する 1) 説得的コミュニケーション 効果的な説得的コミュニケーションのポイント			講義	担当：三木4 テキスト1、資料
5	2) 攻撃行動と援助行動 攻撃性の抑制、援助行動と援助成果			講義	担当：三木5 テキスト1、資料
6	人間関係をつくる理論について理解する 1) コミュニケーションの種類と特徴 コミュニケーションの機能、チャンネル			講義	担当：三木6 テキスト1、資料
7	2) コミュニケーションスキルと看護への応用 コーチング理論、アサーション理論			講義	担当：三木7 テキスト1、資料
8	体験を通して自己を知り、自己を表現することができる			講義	担当：石井1~7 テキスト1、資料
9	自己理解、自己表現、コミュニケーションスキルの活用			演習	
10	1) 人と身体を動かしてみる体験から他者との関係づくり			(八鹿病院講堂)	
11	を円滑にする				

12	2) 創造的な問題解決をはかる		
13	3) 自己の聴き方、伝え方、尋ね方を体験から振り返る		
14			
15	終講試験		
受講上の留意点 授業を受けるにあたり、主体的に予習・復習に努めましょう 試験配点表で各担当講師の配点を確認しましょう		評価方法 レポート、筆記試験	
使用するテキスト 1. 人間関係論 (医学書院 eテキスト)			
参考文献 看護学概論、基礎看護技術 I (医学書院 eテキスト)			

授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	永澤 仁・神谷 勝 椿野浩二・卯野敦子 松田一戯・寺内卓己 濟 葆子
科目名	生活の中の芸術	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容 但馬の地域や暮らし、それぞれの芸術、伝統、技術について調べて授業に臨む。					
科目全体のねらい・授業目標 芸術文化は地域性と密接な関係を持っている。但馬地域で長い時間をかけて創られてきた芸術に親しむことで、地域を知る事につながり、さらには地域に住まう患者・療養者・家族の生活に思いをはせ、年代を超えた交流に繋がるものとする。また、芸術作品を鑑賞し、味わい、作品に込められた思いを知る事で、人としての豊かな感性を育むことをねらいとする。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
授業の流れ					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	伝統陶芸の「美」を味わうことができる(出石焼)		談話・演習(多目的室) レポート	担当:永澤 講師準備物	
2	但馬地域の暮らしと芸術を理解することができる(木彫)		談話・演習(多目的室) レポート	担当:松田 講師準備物	
3	自然なものが創り出す「美」を味わうことができる(絵画)		談話・演習(多目的室) レポート	担当:椿野 講師準備物	
4	地元伝統文化を理解することができる(麦わら細工)		談話・演習(多目的室) レポート	担当:神谷 講師準備物	
5	引き継がれている伝統文化を理解することができる(杞柳細工)		談話・演習(多目的室) レポート	担当:寺内 講師準備物	
6	楽器の表現や歌唱を楽しみながら、音楽の多様性を理解することができる(マリンバ演奏)		談話・演習(病院講堂) レポート	担当:卯野 講師準備物	
7	金属とクリスタルと火が創り出す「美」を味わうことができる(七宝焼き)		談話・演習(多目的室) レポート	担当:濟 講師準備物	
受講上の留意点			評価方法		
<ul style="list-style-type: none"> 各講師、おおよそ90分の講義(体験学習を含む)。残り90分(研修)はレポート作成時間となる。 レポートは、レポートの書き方に準じて作成をする。 体験学習にかかる費用は、個人負担となる。 授業1週間前に、週番は事前準備や個人準備物・費用目安などについて、学年担当に確認を行う。 			出席状況 講義1時間=4点 1コマ=2時間=8点 (七宝は3時間=10点) レポート:1授業につき6点		
使用するテキスト 授業ごとに講師が準備する。					
参考文献					

授業概要

分野	専門分野	履修年次	1年次	担当講師	福安 勝則
科目名	外国語 「英語」	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
事前学習内容 授業時に講師より指示された内容に取り組む					
科目全体のねらい・授業目標 英語表現の特徴やコミュニケーションのマナーを学ぶことにより、国際社会における人と人との繋がりの在り方や、文化の違いを受け入れることの大切さを理解する。また、国際社会で自分を表現するための基礎となる考える力、基礎的語学力を身につけ、日常の医療場面に応対できることを目指す。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP7 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	導入：授業の説明（授業の進め方、評価方法、英語学習の意義他）。 テキスト1 ：クラスルームイングリッシュ。 テキスト2 ：L.1 「何を学ぶ？」			講義	テキスト1, pp. 8-14. テキスト2, pp. 3-5.
2	テキスト1 ：病院の受付で会話表現、各科の名称、症状の尋ね方、附属施設名など。 テキスト2 ：L.2 会話「「自分探し」か「自分づくり」か」			講義	テキスト1, pp. 16-19. テキスト2, pp. 6-8.
3	テキスト1 ：問診票を書き込む場面での英会話練習と表現の習得、質問方法、職業名。 テキスト2 ：L.3 会話「一語の学習も奇跡」			講義	テキスト1, pp. 20-21. テキスト2, pp. 9-11.
4	テキスト1 ：日付の書き方、読み方、応用会話、称号の表現、写真の状況を読み取り、英語で表現。 テキスト2 ：L.4 「ゆっくりでも着実に」			講義	テキスト1, pp. 22-23. テキスト2, pp. 12-13.
5	テキスト1 ：症状を聞いている場面の英会話、やり取り練習、部位の英語名、写真の読み取り会話。 テキスト2 ：L.5 会話「準備とその意味」			講義	テキスト1, pp. 24-27. テキスト2, pp. 14-15.
6	テキスト1 ：歯の名称、診察室での英会話、質問表現の習得、痛みを伝える4方法、写真から判断。 テキスト2 ：L.6 会話「決断の難しさと決断」			講義	テキスト1, pp. 28-30. テキスト2, pp. 16-18.
7	テキスト1 ：動詞の復習、Wh 疑問文、症状を尋ねて答える練習、子供のかかりやすい病名、症状。 テキスト2 ：L.7 会話「好きになること」			講義	テキスト1, pp. 31-33. テキスト2, pp. 19-20.
8	テキスト1 ：日課についての看護師と患者の会話、日課の聞き方の習得、日課の読み取り会話練習。 テキスト2 ：L.8 「すぐ行動、ゆっくり熟考」			講義	テキスト1, pp. 38-41. テキスト2, pp. 21-22.
9	テキスト1 ：2種類の時刻表現と前置詞使い分け、器具準備場面での英会話練習。 テキスト2 ：L.9 会話「生きていることとよく生きること」			講義	テキスト1, pp. 42-44. テキスト2, pp. 23-25.
10	テキスト1 ：器具名の英語、医師と看護師の器具をめぐる会話の練習、加算・不加算名詞。 テキスト2 ：L.10 会話「精神的に老いないためには」			講義	テキスト1, pp. 45-48. テキスト2, pp. 26-28.
11	テキスト1 ：物の配置の説明場面の会話練習、位置関係の英語表現の習得。 テキスト2 ：L.11 英語会話「時間の長さや質」			講義	テキスト1, pp. 49-54. テキスト2, pp. 29-32.
12	テキスト1 ：病院内の案内の説明場面での会話練習とその表現の習得。 テキスト2 ：L.12 英語会話練習「追っかけないことで得る」			講義	テキスト1, pp. 55-59. テキスト2, pp. 33-35.
13	テキスト1 ：病院近辺の説明場面での英会話、患者さんとの会話練習。 テキスト2 ：L.13 会話練習「幸せは感染する」、名言の意味、文法説明			講義	テキスト1, pp. 67-73, テキスト2, pp. 37-40.
14	テキスト1 ：病歴を尋ねる場面、手術前の場面の英会話練習。 テキスト2 ：L.14 会話練習「疑問を持つことをやめない、興味を持ち続ける」			講義	テキスト1, pp. 77, 82-83. テキスト2, pp. 41-43.

15	終講試験		
受講上の留意点: ・導入での説明を受講が終了するまで忘れないこと。 ・事前学習を十分おこない授業に臨む。・辞書（電子辞書可）持参。積極的な質問を歓迎します。		評価方法: 会話練習や課題を含む授業内活動と筆記最終試験	
使用するテキスト: 1.Morooka, Vivian, and Terri Sugiura. <i>Vital Signs [Revised Edition]: Essential English for Healthcare Professionals</i> . Nan' un-Do, 2018. 2.Food thought: Growing Through Dialogue 『思考の糧-対話で成長』福井印刷 2026.			
参考文献 Murphy, Raymond. <i>English Grammar in Use: Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English</i> . 4th ed., Cambridge UP, 2015.			

授業概要

分野	基礎分野	履修年次	2年次	担当講師	西村 正広
科目名	運動と健康	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容 授業時に講師より指示された内容に取り組む。					
科目全体のねらい・授業目標 健康の担い手として自らの健康管理ができるように生活活動と健康の成り立ちを学び、さらに健康の保持・増進に向けた取り組みに対応できるようにリーダー的役割が果たせるよう基本的な知識・方法を学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	現代における健康阻害要因と健康意識の高まりが理解できる (健康の概念と運動・健康意識・生活習慣)			講義	講師資料
2	運動の効用が理解できる(運動機能・予防医学の効果)			講義	講師資料
3	運動処方の原理が理解できる			講義 演習(多目的室)	講師資料
4	(運動処方・運動負荷検査・個別指導・高齢者の体力特性)				
5	運動プログラムの組み立ての原則が理解できる			講義 演習(多目的室)	講師資料
6	(必要運動量、運動量の算定・運動強度の表し方・エネルギー産生とエアロビクス・運動種目の選び方・運動プログラムの作り方)				
7	自分の健康について振り返り、健康生活に向けた課題を明らかにすることができる (ライフスタイル・生活習慣病・ウェルネス)			講義 演習(多目的室)	講師資料
8	終講試験				
受講上の留意点 ・事前学習を十分に行い、授業・演習に臨む。 ・自身の健康に興味・関心を持ち、授業に臨む。 ・会場準備、必要物品が必要となる授業がある。事前に学年担当に確認を行い、スムーズに授業に臨めるようにする。 ・授業内容により、動きやすい服装を選択する。				評価方法 筆記試験・レポート	
使用するテキスト 講師資料					
参考文献 健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023(厚生労働省) アクティブガイド-健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023(成人版・高齢者版・こども版)					

授業概要

分野	専門分野	履修年次	1年次	担当講師	藤田いづみ
科目名	家族論	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容 授業時に講師より指示された内容に取り組む。					
科目全体のねらい・授業目標 看護の対象は、対象者と家族であり、対象者と共に家族へのケアが必要である。その家族について基本となる知識と家族ケアに繋がる支援の考え方・方法を学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
授業の流れ					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	家族の基本的な概念が理解できる (家族とは、家族の捉え方・家族構造とは、血縁関係・親族関係を把握する方法・家族と家族外の間を把握する方法・チーム医療での活用)			講義	テキスト1
2	家族の機能が理解できる (家族の育児機能・セルフケア機能・社会における家族機能・家族機能を把握するためのモデルと方法)			講義	テキスト1
3	現代家族における課題が理解できる (現代家族の様相と課題)			講義	テキスト1
4	家族支援のアプローチ方法が理解できる 家族を理解するための理論がわかる (家族発達理論・家族システム理論)			講義	テキスト1
5	家族の変化を把握するための理論がわかる (家族ストレス対処理論)			講義	テキスト1
6	家族に変化をもたらすための介入がわかる (家族療法・家族を支える介入)			講義	テキスト1
7				講義	テキスト1
8	終講試験				
受講上の留意点 ・事前学習を十分行い、主体的に授業に取り組む。 ・自己の身に置き換えイメージしながら、授業に臨む。				評価方法 筆記試験	
使用するテキスト 1. 家族看護学(医学書院 eテキスト)					
参考文献					